

事後評価結果（令和元年度）

担当課：熊本市土木部道路整備課

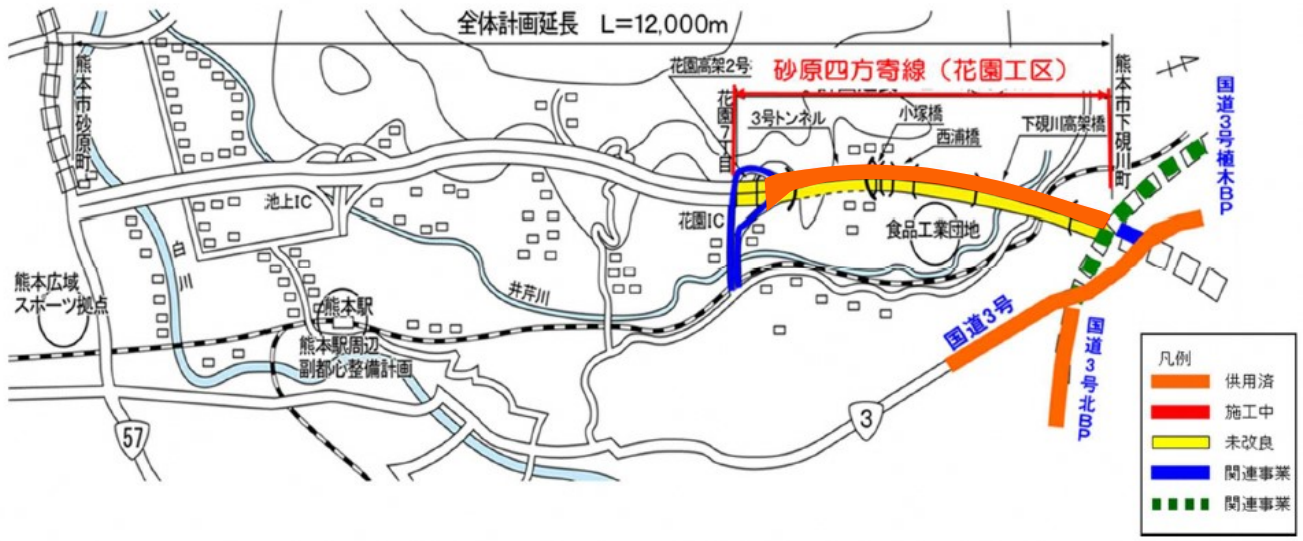
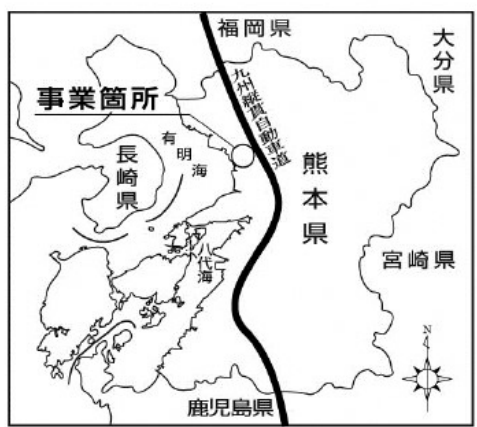
担当課長名：今村 寿也

事業名	地域高規格道路 <small>くもとかんじょうどうろ</small> 熊本環状道路 一般県道 <small>すなはらよもぎ</small> 砂原四方寄線 <small>はなぞのこうく</small> 花園工区	事業区分	地方道	事業主体	熊本市
起終点	自：熊本県熊本市西区花園7丁目 至：熊本県熊本市北区下硯川町			延長	4.1 km

事業概要 (一) 砂原四方寄線は、熊本都市圏の骨格を形成する「2環状11放射道路網」の外環状のうち、その西側を構成する延長約12kmの地域高規格道路である。熊本市中心部の慢性的な交通混雑を緩和するとともに、広域交通拠点へのアクセス性向上及び物流の効率化などを目的とした事業である。

- 事業の目的・必要性**
- ・ 国道3号など主要幹線道路から交通転換が図られることによる交通混雑の緩和が図られる。
 - ・ 熊本駅や熊本港（重要港湾）などの広域交通拠点へのアクセス性が向上する。
 - ・ 医療施設相互のアクセス性が向上し救急医療活動の支援が図られる。

事業概要図



事業の効果等	事業期間	事業化年度 都市計画決定	H11年度 H11年度	用地着手 工事着手	H13年度 H14年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) / H28年度 (実績) / H28年度	変動	1.0倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / 228億円 (実質値) - / 228億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) - / 228億円 (実質値) - / 228億円			変動	1.0倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	将来交通量 (H42) - / 20,200-22,300台/日		実績 (暫定/完成)	— / 5,705台/日		変動	28%
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	[一般国道3号(現道)] 23.5 km/h → 24.3 km/h (供用前)H28年度 (供用後)H30年度			交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	[一般国道3号(現道)] 76件/年 → 59件/年 (供用前)H25-H28年 (供用後)H29年			
費用対効果分析結果 (前回再評価)	B/C	2.4	総費用	254億円 事業費: 250億円 維持管理費: 4.4億円	総便益	619億円 走行時間短縮便益: 513億円 走行経費減少便益: 63億円 交通事故減少便益: 43億円	基準年	平成27年	
費用対効果分析結果 (事後)	B/C	2.1	総費用	308億円 事業費: 303億円 維持管理費: 5.2億円	総便益	647億円 走行時間短縮便益: 460億円 走行経費減少便益: 121億円 交通事故減少便益: 66億円	基準年	令和元年	
事業遅延によるコスト増			費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円			
事業遅延の理由									
・特になし									
客観的評価指標に対応する事後評価項目									
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保。(現道の渋滞損失時間の削減: 削減率約3割(主)熊本原坂線) ・物流効率化の支援。(重要港湾へのアクセス向上: 熊本市北区役所~熊本港) ・国土・地域ネットワークの構築。(日常活動圏中心都市へのアクセス向上: 山鹿市役所~熊本市役所) 									
その他評価すべきと判断した項目									
<ul style="list-style-type: none"> ・開通により並行区間の渋滞を避けて熊本市中心部まで行き来が可能のため、日常生活において買いものや通院など利便性が向上した。 ・周辺に立地する小学校では、開通により通学路に指定されている市道の抜け道利用が減少したことで、通学路の安全性が向上した。 									
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目								
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該道路は、環境影響評価を平成11年2月に実施しており、予測評価の結果、大気質、振動、植物、動物については環境保全目標を満足している。 ・騒音については、環境保全目標を上回る予測評価結果となっているが、供用後の騒音測定結果は環境基準値を満足している。今後、沿道の土地利用等の地域状況や交通量推移による騒音状況等を勘案して、対策が必要な場合は、適切な環境保全対策を講じる。 								
その他評価すべきと判断した項目									
事業を巡る社会経済情勢等の変化									
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市の人口は、増加傾向を示し、一世帯当たりの自動車保有台数は約1.5台/世帯である。 ・並行する国道3号の交通量は約5.0万台/日で推移。 									
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性									
<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に沿った事業効果の発現が確認されており、更なる事後評価の必要はない。 ・(一)砂原四方寄線の整備により、「交通混雑の緩和」「移動時間の短縮」「救急医療活動支援」等について、一定の効果を得られている。これらのことから、当面の改善措置の必要はない。 									

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・（一）砂原四方寄線は、熊本市内の交通混雑の緩和等を目的とした地域高規格道路であり、花園工区はその一部である。
- ・計画及び施工時においては地元住民や関係機関等との合意形成が重要である。
- ・事業の進捗状況を地元住民等に説明し理解していただくことで、大きなトラブルもなく円滑に工事を進めることができた。
- ・引き続き池上工区も事業中であり、更なる効果増幅が期待されるため、池上工区開通後の評価が重要。

特記事項

- ・特になし。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。